

上山口小だより

かしこく・なかよく・たくましく

平成 28(2016)年 7月 19日

第 5号

葉山町立上山口小学校

編集発行 中根正彦

TEL 046-878-7529

子どもたちが待ち望んだ夏休みがもう目前です。子どもたちには、校長から2つの宿題を出します。一つは、無事にこの夏を過ごし2学期に元気な姿を見せること。もう一つは、夏にしかできない仕事(手伝い)をしたり、思い出を作ったりすることです。

事故に気をつけて、子どもたちによい夏休みを過ごさせてあげてください。

9月の予定

- 9月 1日(木) 2学期始業式 短縮3校時
- 2日(金) 5年学級親睦会 短縮3校時
- 5日(月) 短縮5校時 給食開始 身体測定(~9日)※
- 6日(火) 通常日課 委員会活動
- 8日(木) 朝会(目標) 学級懇談会(全学年)
- 9日(金) 避難訓練
- 15日(木) 児童朝会 引き渡し訓練
- 21日(水) 1・2年遠足(野毛山動物園)、4年宮が瀬ダム見学
- 26日(月) 安全と命について考える日
- 27日(火) クラブ活動
- 29日(木) 音楽朝会5年生
- 30日(金) レインボー昼休み

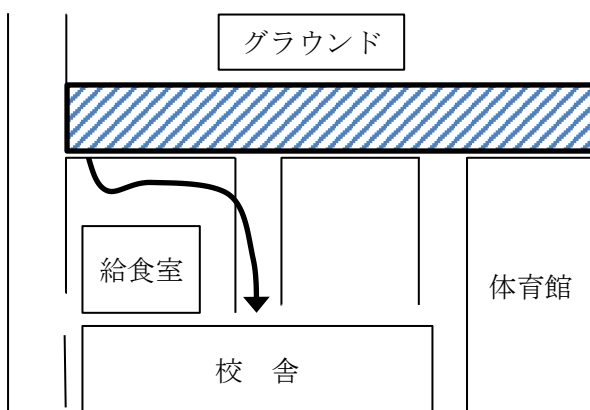


※身体計測は学年毎に日が違います。詳細は学年だより等で。



グラウンド工事や川沿いの工事について

7月21日(木)から、グラウンド工事が開始されます。その間は校庭脇にフェンスが出来て、校舎とグラウンドの間の通路が全て使えなくなります。そこで、以下の様な対応をいたしますので、ご了解ください。



《グラウンド工事について》

- ・児童は、特別な場合を除き、夏季休業中は学校には来ない様指導します。(指示がある場合を除く)ご家庭でも、ご承知おきください。
- ・来校しなければならぬ場合は、矢印で示した部分が通路です。設置された通路を通して正面玄関まで来てください。
- ・駐車スペースも工事の関係で、工事関係車両用の駐車場所が設置されます。ご了解ください。

・工事期間は、9月下旬までとなっております。

9月の児童の登校も当面矢印で示した通路を通ることになります。

《河川改修工事に伴う規制について》

7月の21日(木)~23日(土)の9:00~17:00にかけて、工事に伴う車両通行止めがあります。学校へは以前お知らせした通り「上山口小学校入り口」信号から入ることになります。ご承知おきください。※指定時間外は大丈夫です。



魚の解剖実験

過去3年間に魚の解剖実験をした学校が6%というデータを目にしました。しない理由は、「視聴覚教材で代替できる」「生命尊重の教育に反する」などだそうです。上小では、今回全員に主にイナダが1匹ずつ与えられていました。学習指導要領では「体内の観察については、魚の解剖や標本などの活用が考えられる」となっています。

そんな解剖実験ですが、子どもたちの学びの声がこれらの実験の意義を考える上で重要だと思っています。

- ・「魚の命は大切だけど、勉強のためにつかってしまいました。これからは、命の事を考えたいです」
- ・「魚の解剖をして、内臓の位置や魚の本当の姿がわかりました。心臓やかん臓やえら等、魚が生きるうえで必要なものをとることができました。心臓は真っ赤でした」
- ・「魚の体は小さいのに消化管がとても長くてびっくりしました。ほかにあったけど思ったよりも大きくてぎっしりと入っていて驚きました」
- ・「魚の解剖をしてわかった事は、魚の内身がぎっしりつまっていた事と…。《略》発見した事は、うきぶくろのまくがとてもうすい事です。あと教科書とちがう所がいっぱいありました」
- ・「はじめて心ぞうを見たとき、まさか、と思いました。なぜなら、まるっこいと思っていた心ぞうが三角だったからです。あと、のうみそが思ったより小さかったこともびっくりしました」
- ・「びっくりしたことは、胃の中に魚が入っていたことです。魚は、ほねがいっぱいあったし、なんといっても心ぞうが小さかったことです」
- ・「うきぶくろはここにあるのか、魚の体の中を見ることができて、最初はこわかったけど、やっている、夢中になって楽しかったです。最初は、臭かったけど、やっている、だんだん慣れてきました」



子どもたちの真剣な顔を見て、安心をいたしました。命の大切さにも十分に意識しており、子どもたちの作文からもそれが感じられます。

「教科書と違う」「思っていたより〇〇でした」という感想は、頭の中の学びでなく実際の体験からの学びであることを示しています。

理科のねらい「血液は心臓の働きで体内をめぐり…」、「食べた物はどこを通過してどのように変化し…胃や腸へと移動する間に消化されていくことをとらえるようにす

る」の2つが今回のねらいですが、呼吸、消化、排出、循環の仕組みの一端が今回の実験で学べたようです。

カブト虫が動かなくなったとき「電池が切れた」と言ったり、魚は切り身の形で泳いでいるかと思っていたり、上小の子はそんな子どもにはならず、済みそうです。



ミツバチのお話し

地元で養蜂を行っている石井さんが、1・2年生の前に、ミツバチとハチミツに関わるお話しをしてくれました。



「人間が食べている食物(野菜)の交配の70%を昆虫が行っているんだ。アインシュタインという学者が『もしハチがいなくなったら、人類は4年でいなくなってしまう』と言っているくらいだ。だから、ミツバチや昆虫を大切にしなければならない。」

「いっぱい箱があるけれど、ミツバチは絶対家を間違えないんだよ。でも、たまに間違えるハチがいるんだけど、他の箱に入ってもいじめられない。仲良くしてくれる。だから君たちも仲良くしてけんかしちゃだめぞ」

「ハチは自転車より少し速いスピード時速30kmくらいで飛ぶんだ。箱を中心にして半径2kmくらいの範囲で動く、40~50kmも飛ぶんだよ。それに太陽の位置で自分の場所がわかるんだ。ほら、みんなの家の車にもナビがついているだろう。(ハチには)ナビゲーターがあるんだよ」

「働き蜂は、春のハチは1か月しか生きられない。冬の12月や1月に生まれた働きバチは6か月生きられる。春のハチは花がいっぱいで、働きすぎて生きられなくなっちゃうんだ」

お話しのと子どもたちは、ハチミツを舐めさせてもらった上に、石井さんの奥様お手製のハチミツレモンを飲ませていただき、大感激!

「一匹のハチが一生で食べるハチミツの量はティースプーン1杯くらいなんだ」という石井さんの話に、「えー。(ミツバチの一生分)食べちゃった!」という声。

ハチミツがミツバチにとっていかに貴重なものなのかも知ることができました。



おそるおそる、指ですくうと、トロリと蜜が…



おいしいねー、子どもたち！見てくださーい。足の小さな顔の満



手製のハチミツレモンをいただく。石井さんの作ったハチミツレモンの方がおいしいのだそ





着衣泳

水泳指導前半は雨のせいでなかなかプールに入ることができませんでした
が、後半は比較的天気恵まれ、順調に水泳学習が行われました。



その中で特に全学年、毎年行っているのが「着衣泳」です。これは水難事故から子どもたちを守るために、行われています。

夏休みに川や海にレジャーに行く子どもたちも多いと思います。不意に足を滑らせて川や海に落ちたとき、服を着たままでとその抵抗の大きさに驚き、慌てて溺れてしまいます。そこで、服を着て入水したときがどんな感じなのか、どう過ごせばより危険を軽減できるのかをこの着衣泳で学びます。服を着て、泳いだあと教員が感想を聞くと、

「重かった」「泳ぎにくかった」「なかなか進まなかった」

という声が上がりました。この泳ぎ難さを知っているのと知っていないのでは、慌て方が違います。慌てて動いてエネルギーを消費し、溺れてしまうことがないようにするのが着衣泳のねらいです。

泳ぎにくかった。
なかなか進まなかった。
と声が上がりました。



慌てずに、救助を待つための「背浮き」の練習。
最初はビート板(スイミングボード)を使ってみよう！

次に、救助を待つための「背浮き」の練習。これは海上保安庁でも紹介されています。頭の先や耳を水上に上げようとすると、その分口や鼻が沈んで呼吸ができなくなります。そこで、思い切って頭の先や耳を沈めるのがコツです。でも勇気がいりますよね。

お家でも夏休みに機会がありましたら、「背浮き」などの練習を手伝ってあげてください。